月刊サカタニ友の会ニュース
とんからりん

発行（株）サカタニ
集酉楽・サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京阪七条店
〒605-0993　京・
東山区七条こころ坂下
TEL・075-561-7974
URLwww.sosake.jp/
Eメール・info@sosake.jp
編集・酒谷義郎
yosirou@sosake.jp

お祭りの今・・・

京都の五月「り」は静かになり、鯖寿司を家庭では各町々で「お祭り」が多い。

京都の三大祭りの一つ「葵祭り」賀茂御祖神社（下鴨神社）と賀茂別雷神社の例祭で5月15日。平安朝の優雅な平安貴族そのままの姿で行列をつくり、御所を出発、総勢500名以上の風雅な行列が下鴨神社を経て、上賀茂神社へ向かいます。

戦前その日、京都市の小学校は休校。前日の14日は通っていた貞教校は新日吉神社の氏子で休校。連休で大喜び。

正面通や新日吉神社には前日から「店」が出て金魚掬いが楽しめました。私どもの店の三軒東は「稲荷祭」裏は「藤森祭」でお酒や寿司用のお酢が良く売れました。

祖母も鯖寿司をつくり、それを親戚知人宅へ配る役目をしたものです。昭和20年代後半から「祭」が蘇って来たから・・・。

それと入れ替わるように戦時中、禁止されていた労働者階級の祭典「五月祭・メーデー」が復活。【日本は1920年（大9）月2日第1回～2012年（平24）第83回】♪聞け万国の労働者♪と「団結」と「要求」のプラカードを掲げた全国で労働組合員や市民数十万の人のが「大デモ行進」が行われました。

1946年当時食料難で『米よこせメーデー』1952年は『皇居前広場』で血のメーデーもありました。

その後日本は大成長時代が続き、何時の間にか「労働階級」という言葉も意識もなくなった感じです。団結でなく、個々が幸せになれば良いという気風が強くなったようにみえます。それも、日本大震災、原発事故で、曲がり角のようです。物は余る程に豊かでも、命の尊さ、繋がりの大切さを、忘れてはダメだという日本人本来の「心」が蘇って来たから・・・。

やまもと民話の会・庄司アイ様の
おハガキから（抜粋）

私の集落は海の見えない所、海を感じないでおりましたので、隣近所、大勢の方々を失いました。私の家族は奇跡！命をもらいました。ガレキの中で一晩。声なき声形のない形にどう寄りそえ、むきあえばよいのか・・苦しい日々です。また家族の将来、先ず住む所をどうするか。夫87歳、私77歳、わずかな年金・・でも希望を失わず励ましあっています。夫は兵役体験、今回は皆様の支援で「食・衣・住も」満たされたことに感激しきりです。家族も多いので気分もまぎれます。皆様によろしく。

（注）京都社協の支援に感謝文も有

3・11を永遠に語りつぐ
やまもと民話の会・
代表　庄司アイ

大地が割れる
巨大な波が襲う
原発が爆発する
想定はあり得ない
無常の扉を開いて祈りましょう
慈母のような自然の恵み
厳父・いや悪魔のような天災地変
私達の地球は二つの相貌をもつ
本物の文明、本当の文化を求め
自然と睦み　命をいとうしむ
語りつごうあったることを
ありのままに

この本二集が届きました。ギャラリィカフェ集に置いてます。一、二集もあります。500円カンパ

第88回:朝粥食べておシャベリ会 報告

定例：4/15：第3日曜

朝粥を食べる前、朝粥会では**「食品のカビ・住まいのカビ」と題してのお話を**農学博士濱田信夫先生に戴いた

京都大学（農学研究科　応用植物薬学部　製薬化学）

さすが日本一のカビ博士、世界を飛び回りカビを集め研究されました。お風呂のカビについてのご説明では、お客様も聞き逃すまいと　熱心に聴講。

※カビは温度20～30度、湿度75％以上になると増えやすくなるという。最も生えやすい浴室は、使用後に窓を開けるか、換気扇を回す。先ず、通気を良くすることなど。

質問が多く出たが、来年、又とお約束を得て終り、お粥を食した。

最近の、朝粥会は定員40人満席でキャンセル待ち状態。
ご予約後の無断欠席は、困ります。必ず前日にお知らせを。

---どんつき---

▽忘却とは忘れ去ることなり。忘れ得ずして忘却を誓う心の悲しさよ」菊田一夫の代表作。1952年（昭27）放送のラジオドラマ冒頭のナレーション。

▼放送が始まると『女湯』が空になるといわれた「君の名は」は氏家真知子：岸惠子。後宮春樹：佐田啓二で映画化され「真知子巻き」が大流行した。

▽真知子巻きは、まき寿司ではないとマネた人も多いでしょうからご存知でしょう。話は東京大空襲、焼夷弾が降る中からスタート。

▼大空襲から7年。戦争放棄の憲法施行後5年。修学旅行で行った新宿は「焼け跡」だらけだった。戦争の悲惨と愚かさを日本人はマダ忘れていなかった。

▽ところが60数年で忘却をした人、戦争も忘れた。原爆を落とされた国が、原発をつくって苦しんでいる。過去を忘却した所為で有る。

▼大災は、忘れたころ来るという。人災は、何時起こるかわからない。花見で賑わっていた昼間の祇園でも起こった。大切なことは失敗を忘れないこと。

▽傷そうに書いたが、「君の名は？」と聞いても直ぐに忘れてしまう私。「君の名は」で有名になった数寄屋橋も消えた。お互いに頑張って『忘却』との闘いに勝とう！。

ヨシィちゃんのひとりごと

始末をしなはれ

この題は先月号で「大往生」で掲載した、祖母（きぬ）の言葉。耳にタコができる程聞き、今も祖母の「京ことば」の響きで私の頭に刷り込まれています。

全国的には「＊始末」というと【＊始めから終わりまでの細かい事情、または成り行き。いきさつ。顛末。事の始末を見守る。ある物事の最終的な状況。特に、よくない結果。しまいには泣き出す始末】などに使われますが、京・大阪では「節約・倹約」の意味で使われました。むしろ、この方が多かったようです。

祖母は言うだけでなく徹底的な始末（倹約）屋で「鼻をかんだ紙」も捨てず「紙くず屋」さんに渡し、ご飯を炊いた時に出来た「おこげ」は塩を振り、日に干して丁稚さんの「＊おやつ・＊けんずい（建踊）」用にしました。【＊おやつ＝午後2時にだす間食。＊けんずい＝大工さんなどに出すお摘まみ】

そのご飯は麦が三分入り、幼児時代の洋服は、私より6歳上の祖母の甥のお古＊セコハンで破れた部分に布を当て刺繍のような針使いで修理したもの着せました。

【＊セコハン＝セカンドハンド（二度使い）笠置シズ子の買い物ブギから流行語となる】

明治時代の人は、その様に「始末＝倹約」を身をもって実行し教えました。そして戦時中は空襲、戦後の食糧難、インフレのなか生き、子や孫を育て来たのです。

始末は「けち」ではなく、人間が自然と関係の中で、「自然物限界、限度」を知り「粗末に扱わない＝消費を抑える」ことの表現した大切な忘れてはいけない言葉と思えるのですが・・・・。

上の写真は長島茂雄氏引退時

長嶋茂雄さんは私と2才下。育った時代も同じころ、彼は引退時「わが巨人軍は永久に不滅です。」との言葉を残しました。その巨人軍、お家騒動で大騒ぎ。その影響か、4月25日現在最下位。私は巨人ファン。プロ野球TVはその試合しかみない。が、読売新聞購読者でもない。

戦時中、小学生当時は大相撲が人気「メンコ」もその絵が「駄菓子屋」さんに並んでいた。双葉山が強かった。戦後プロ野球が復活。阪神が強く友人たちもファンが多かった。当時の巨人は弱くクラスで少数派。どうも私は性格が悪く素直な人間で無いらしく弱いものに引かれる。そして派手なことは好きでなく内気です。（本当）。

巨人軍でも派手な感じの長島より地味な王。当時は塀際の魔術師と言われた外野手、平山菊雄（背番号25）が好きだった。

当時の巨人と阪神の選手名を今も覚えているのに今置いたメガネの場用を忘れ老いを実感されます。予定場所埋めるため長々と書きました。言いたいことは長島氏の誤り「永久に不滅」はない。ということだけ。「始めがあれば終もあり」だから「始末」です。

始末書

【ヨシィちゃんのひとりごと】を書いて

いて、ふと「始末書」が頭に浮かんだ。（学校等では「反省文」というらしい）私自身は一度も書いていないが、管理職で比較的軽い不正行為をした部下に何度か書かせた。通常、「した行為を記入し、末行二度とこのような行為はいたしません」と誓わせ、記名捺印をさせる。金銭や商品横領は弁済をさせる場合も多い。

だが、経験上100％に近い程、誓いが守られないものだ。言い換えれば殆ど又やるもの。二度有ることは三度あるというが、これは人間の行為以外にのみ通用し、人間の場合は、一度やった奴は二も三もあると覚悟した方が良い。その覚悟をみせれば、やった奴も二度としないもの。それが結果としてその人を救うことになる。

巡査がサーベルを腰に付けていた頃、悪さをすると「巡査に始末書を取られる」と脅され怖かった。

近頃は、警察署に警察の捜査が入ったり、警官や署長クラスが戒告（譴責）、訓告で始末書の提出を求められるニュースが良く流れる。もう怖くなくなった。

億単位の金を、上司に言わず、上司も聞いてないと言えば、証拠が無いので【無罪】の判決。無実で何年も徴役も再々。もうこの国は、非常識で溢れているのかなぁ。

停電とガス灯

電力不足で計画停電が話題になっている。

私は「停電」の言葉で直ぐに「ガス灯」が頭に浮かぶ。

敗戦後の日本は毎日のように停電した。それはも必ず夕暮れから2時間程。戦時中は空襲で明かりを消すことが有っても停電は無かったのに。その停電の時、わが家では「ガス灯」をつけた。ガスが燃える小さな音と青白い光の下で食べるご飯は陰気で美味しくなかった。高校時代、映画が大好きで「映画と写真部」に入り、殆ど毎日「映画館」に通った。イングリッド・バークマンが好きで、彼女の映画は殆ど見ている。彼女とシャルル・ボアイエの「ガス灯」も見たがあら筋も覚えていない。相手役が、のっぺりとした顔のボアイエだった所為だろう。

それに比べて「カサブランカ」は何度見ても感動する大好きな映画。ラストシーンで、実は対独レジスタンスのシンパであったことを明らかにしたルノー署長が、ミネラルウォーターに描かれた「ヴィシー水」のラベルを見てゴミ箱に投げ捨てるシーンしびれた。バークマンもハンフリー・ボガードもストリーも最高。が、今、映画は何年も見ていない。

※連載中の「シゲちゃんの疑問」著者井上茂樹様のご都合で今月は休みです。

京都&東山ぶらりピカリ 32

軍歌 戦友 は♪

「ここはお国を何百里 離れて遠き満州の 赤い夕日に照らされて 友は野ずえの石の下♪で始まり14番まである日露戦争当時につくられた軍歌。私と同じ昭和一桁生まれの方なら恐らく一番は諳んじて歌える大流行（軍）歌。

作詞は**真下飛泉先生**（ましもひせん）（1878～1925）です。（作曲は三善和気氏）

その石碑（写真）は、前号この欄「瓜生石」の近く、先生が一時身を寄せていた縁の良正院（りょうしょういん）前に、教え子1824人が顕彰して1927年（昭2）建立されたものです。 真下先生は、（現福知山市大江町河守）農家の二男として誕生し、長じて京都師範学校卒業後、教職のかたわら文芸に傾倒されます。特に短歌は与謝野鉄幹に師事し、鉄幹主宰の「明星派」の影響を強く受けられたとか。先の戦時中は、戦意高揚を図る軍歌が多くありましたが、『戦友』の友の死を悼む哀切に満ちた詩風は、与謝野晶子の「ああおとうとよ 君を泣く君死にたもうことなかれ」の詩と、あい通じるものを感じます。先の大戦時代で軍部は、この歌を禁じています。それは、この歌の裏側に厭戦思想があると感じたからでしょう。

そして教育者としての先生は、大正時代「**修道小学校**（元東山）」の校長として大活躍。大正末年、教育界から離れて京都市会議員に挑戦され、下京区（**当時は東山区は無い**）でトップ当選されました。が、残念ながら病魔に抗せず亡くなられました。

人道主義、地域主義を志して居られたと聞いていますから、東山にとって否、京都にとって惜しい人を無くしたと思うのです。

市電が走った街 京都を巡る⑮

福田静二

市電路線と市電路線としては三叉路ちなるとなる四条大宮から、赤い系統番号の1番の市電に乗って、北へ向かうことにしましょう。

四条大宮からは、斜めの道路上を行きます。碁盤の目状に伸びる、東西南北の条里制の街路である京都の市街地では、たいへん珍しい区間です。通りの名前は、後院通（こういん）と言います。

後院通は、千本通と大宮通を結ぶ通りで、明治の末期に京都市三大事業のひとつとして市電敷設と同時に、街路の拡幅工事を行った際、千本通を拡張して市電を通そうとしますが、西高瀬川の水運を利用して発展した木材業者が、通りが広くなると同業者が分断されると反対したために、南に延ばすことが出来ず、やむを得ず千本三条から四条大宮に向かって斜めに道路を建設し、市電の線路を敷いたと言われています。

他の市電街路は、明治以前からの街路を拡幅して、市電を建設しましたが、この区間だけは、市電の敷設時に新たに造った道路なのです。

しばらくは、四条大宮の延長として商店が続きます。その中に、いまや全国的な中華料理チェーンとなった餃子店の第一号店が現在もここにあるのが、いかにも庶民の街、四条大宮らしいところです。

やがて「壬生車庫前」に到着です。その名のとおり、市電の壬生車庫が西側に広がります。市電の乗務員もここで交代、市電も運用の都合で、車庫に入ってしまうこともあり、その場合は、新たな市電が前に待っています。その南側には、京都市交通局の庁舎もあり、壬生車庫前は、京都市電の中枢に当たるところと言えます。

壬生車庫は、千本線の開業と同時の明治四十五年に開設されました。廃止前、四つあった京都市電の車庫の中では、もっとも歴史のある車庫で、市営電車とともに歩んできたと言えます。市電の廃止前は、中心部を走る1・10・11・20・21系統の受け持ちで、系統板の色は赤でした。

市電の操車指令所を挟んで、両側から車庫内へ入る引込線があり、中は、市電が多数留置され、日常の整備・点検が行われていたほか、奥には、煉瓦造りの工場もあって、市電全車の修理・修繕も行っていました。

停留所前には、市電の乗務員を相手にした、食堂が軒を連ねていました。ひときわ目立ったのが、唐破風の玄関を持つ木造3階建ての銭湯でした。その当時は、市内にまだまだ木造3階が多く残っていました。個人的ですが、私の高校時代のクラブの先輩の質屋もここを入った路地にありました。食堂、銭湯、質屋…、いまは、あまり見かけなくなりましたね。

車庫は、四条千本大宮線が廃止となった昭和四十七年に同時に廃止、以降は、一部が市バスの駐泊所となり、大部分は、公団住宅になりました。停留所名も「壬生」と改められます。永くその時代が続きましたが、交通局の庁舎が、地下鉄天神川御池駅前に新築移転、跡地に、中京警察署が建設され市電時代の面影がすっかり消えてしまった「壬生車庫前」です。

後院通を四条大宮から壬生車庫前へ向かう市電

壬生車庫前では、乗務員の交代も見られた

壬生車庫では、多くの市電が整備を受けていた

酒屋で生きて生かされて

第六十九話
第2回：馬町爆撃を語ろう会：5／16

この欄、過去に書いた文と重複整理のため本題から離れました。今回も2月号で掲載しました「馬町爆撃を語ろう会」の第2回の「会」のことになります。お許しください。

前回の「馬町爆撃を語ろう会」予想以上のご参加。その後、参加の皆様にアンケートをお送りしました。通常は回収率30％あれば上々ですが、５０％以上のお返事がきました。そしてその半数以上の方々が「感想やご意見」を書き添えてくださいました。驚きもし感動も致しました。

そのアンケートのご意見などを、「会」の開催にご協賛下さった修道自治連合会様らと話し合いをして「第2回馬町爆撃を語ろう会」を5月16日（水）午後6時30分～8時40分・元東山小学校図書室で開催することが決まりました。

内容は第一部：爆撃の資料・記録を基にした「座談会」【①修道小学校所蔵文・②京都女子学園50周年小史記載①②の写しと・③被害写真集を一枚にコピーした資料。

★資料は会の当日参加の方配布】爆撃当時、18歳「学区の伝令員」（各町内に伝え役）をなさっていた石本喜代史様」もご参加】

第二部：今後の方向性などお話合いの時間。になっています。是非ともお知り合いお友達お誘い合わせてご参加下さい。参考に、前の戦争中の東京大空襲3／10・大阪大空襲3/13、爆撃被害（死者42名）小規模ですが早い時期①でした。京都市・近郊で②春日町3／15・0名。③大秦4／10・0名。④御所5／11・0名。⑤西陣6／16・（死者50名）名・記念碑有り。⑥長岡京神足7/19・（死者1名）記念塔・集会有り。と続きました。

③爆撃爆撃被害写真集一部

神足平和塔・↓

馬町爆撃はそれらの爆撃より前ですが何故か解明されていません。

死を自然に受け止める

梶　宏

※四月号「とんからりん」掲載の文筆家・井上茂樹さんの「医療は大往生の邪魔している？」に大変共感したとのご投稿を会員様の　梶　宏（かじひろし）様から戴き転載いたしました。

私が医療に疑問をもつきっかけは、母親の死でした。母は50年ほど前（1963年）、直腸癌を患い家族だけにそれが知らされました。

父は何とかしたいと願って高名な外科医に手術を依頼ました。高名な医師は、手術は成功したと胸を張られたのですが、その医師の指示通り、術後の放射線治療を受けているうちに肺炎を起こし、あっという間に亡くなってしまいました。高熱を出し呼吸が困難になった母は最後、喉に穴を開けられ、言葉を発することなく息を引き取りました。医師は「万全を尽くしました」と言い、当時は医療に頼っているだけの父は、その言葉を信じるだけで医療訴訟など毛ほども考えなかったものですが、自分の病名も知らぬまま父の言うとおりに従ってあっけなく死んでしまった母が可哀想という気持ちは、私の心に刻まれたのです。

死に向っている人間に対し、この国の医療はしばしば拷問に等しい延命治療をやっている実態を見聞きしています。死をタブーにした り敗北とするのではなく、シゲちゃんのおっしゃるように、死を自然に受け止めること、さらには、むしろ人間以外の動物の死に学ぶべきだと思っています。

梶　宏

つばくろ（燕）巣つくり中ご協力を

今年は少し遅くなりましたが「ファミマから2Ｆの「集西楽サカタニ」上がる吹抜けの階段に「つばくろ（燕）が帰ってきて毎年と同様「巣」を作り出しました。2羽のつがいが出入りしています。ビルを建てた翌年から毎年。多分そのころから日本の京都にサカタニで「巣」をつくれと代々伝えてきたのでしょう。

最初は、ショバ代無しで糞を落とされる困るので、追い出そうと思いましたが，はるか南洋から、あんな小さな翼で飛んで来た苦労を察してやめました。数個の卵を生み育て、南洋と日本を自力で往復。その苦難を越えた「子燕」だけが翌年来れる。その繰り返しの中で、優良な遺伝子が選別されるのでしょう。まるで「可愛い子には旅をさせ」の諺を実践しているようです。近頃の人間は燕に学ばないとアキマヘンなぁ。

編集後記

○我流で、何んの勉強もせず、青年時代に経験したガリ版刷り新聞つくりの経験だけで「とんからりん」を出してきました。

●何時も、常に読む一般新聞と比べると何かしらスーと読み難い。といって「新聞作りの勉強会」へは時間が取れず参加が出来ず悩んでいました。

○偶々、ご来店下さったされた会員さんの大学講師、ご本もお出しのF先生に、「とんからりん」つくりの悩みを打ち明けてご意見をお聞きしました。

●読者は高齢者が多い「とんからりん」で1行の字数を減らし、行間も少し広くしてるが何か読み難いと言うと先生は「原因はそこだ」と指摘されました。

○字と字の間の隙間で「字」は見易いが文ではそれでは読み難いとのご忠告えて、1行の文字数を13を15文字に「テスト」しましたら読みやすくなりました。

●「テスト」のように今5月月から紙面本文はそのように変更しました。ご意見をお寄せください。

(例)家庭的な食事。

家庭的な食事。

○この月「とんからりん」に4人様から葉書手紙で激励されました。滅多に無いことでビックリ。

モウ　チョットダケ　ガンバロー。